# 平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月成魚調査 速報

●実施状況

2 月 12 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査当日は中潮で満潮 7 時 32 分、干潮 13 時 35 分（東京都港湾局のデータ）であった。当日は、終始曇天であった。調査時間帯は北よりの風が 0.5～3.6m/s と弱く、波高は 0.1m 未満～0.1m で、海上は平穏であった。各調査地点の下層水は、溶存酸素濃度（DO）が 6.7～10.2mg/L であり、すべての地点で魚類が確認された。　なお、貧酸素水塊は 11 月末に解消されている。

| 調査地点 | St.10 | | St.22 | | St.25 | | St.35 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 調査時間帯 | 13:21～13:31 | | 12:31～12：41 | | 11：37～11:47 | | 10：27～10:47 | |
| 水深(m) | 6.5 | | 13.0 | | 15.0 | | 24.3 | |
| 天候 | 曇り | | 曇り | | 曇り | | 曇り | |
| 気温 | 9.0 | | 7.8 | | 8.7 | | 6.6 | |
| 風向/風速(m/s) | N/0.5 | | N/2.0 | | NNW/0.6 | | N/3.6 | |
| 波浪(m) | 0.1 未満 | | 0.1 未満 | | 0.1 未満 | | 0.1 | |
| 水色 | 灰黄緑色・濃(暗) | | 灰黄緑色・濃(暗) | | 灰黄緑色・濃(暗) | | 緑色・濃(暗) | |
| 透明度(m) | 3.5 | | 4.0 | | 2.8 | | 7.7 | |
| 観測層 | 上層 | 下層 | 上層 | 下層 | 上層 | 下層 | 上層 | 下層 |
| 水温(℃) | 10.7 | 10.0 | 10.3 | 12.2 | 10.4 | 12.1 | 10.3 | 12.8 |
| 塩分 | 31.9 | 32.1 | 31.9 | 33.1 | 30.6 | 33.0 | 32.3 | 33.6 |
| pH | 8.4 | 8.4 | 8.5 | 8.3 | 8.4 | 8.3 | 8.4 | 8.2 |
| DO(mg/L) | 11.2 | 10.2 | 10.0 | 8.1 | 10.5 | 7.7 | 9.6 | 6.7 |
| 臭気 | 無し | 無し | 無し | 無し | 弱ｶﾋﾞ臭 | 無し | 無し | 無し |
| 備考 | | | | | | | | |

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

| 主な出現種等 | St.10 | St.22 | St.25 | St.35 |
|---|---|---|---|---|
| 魚種<br>(多い順注) | ハタタテヌメリ（+） | ハタタテヌメリ（+） | ハタタテヌメリ（r） | テンジクダイ（r） |
| | アカエイ（r） | | サッパ（r） | ハタタテヌメリ（r） |
| | マハゼ（r） | | | コモチジャコ（r） |
| 魚類以外 | クモヒトデ類(G) | クモヒトデ類(G) | タイラギ稚貝（+） | タイラギ稚貝（c） |
| | エビジャコ属（c） | エビジャコ属（c） | ケブカエンコウガニ(+) | ケブカエンコウガニ（+） |
| | サルエビ（r） | トリガイ（r） | | シャコ（+） |
| 備考 | 他に、モヨウハゼ（1）、その他の生物 6 種確認 | 他に、サンショウウニ属、ジンドウイカ科、ジャノメガザミ等確認 | 他に、アカクラゲ、カミクラゲを混獲 | 他に、ウミフクロウ、テッポウエビ類等確認 |

注）表中の（）内の記号は大まかな個体数を表す。

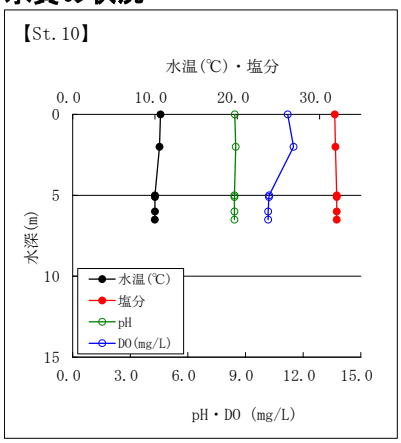
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

# Ｓｔ．10

## 調査地点位置

ディズニーランドの岸寄りに位置する。魚類は、ハタタテヌメリ、アカエイ、マハゼが、その他の生物は、多量のクモヒトデ類、エビジャコ属、サルエビ等合計 10 種類以上が確認された。下層水(水深 6m)の溶存酸素は 10.2mg/L とやや高めであった。

## 水質の状況




## 採取試料

全長約 3cm 前後のサイズが数個体確認された。東京都内湾砂泥底に生息する代表種。産卵期は夏で、昨年孵化した稚魚と思われる。今回の調査では、成魚も含めすべての調査地点で確認された。

１個体のみ確認された。干潟域から沿岸の深みに移動してきた、産卵前の成魚と思われる。マハゼの産卵期は冬季から早春で。内湾や汽水域の砂泥底に♂が巣穴を掘って、産卵を行う。

沿岸の砂泥底に多く生息するエイ。東京湾奥部に非常に多く大型に成長する。尾部に毒針を持ち、刺されると非常に痛い。お台場海浜公園等にても確認され、注意が必要である。

東京湾で最も普通にみられる小型のクルマエビの仲間である。内湾の砂底～砂泥底に生息する。７～８月が産卵盛期である。

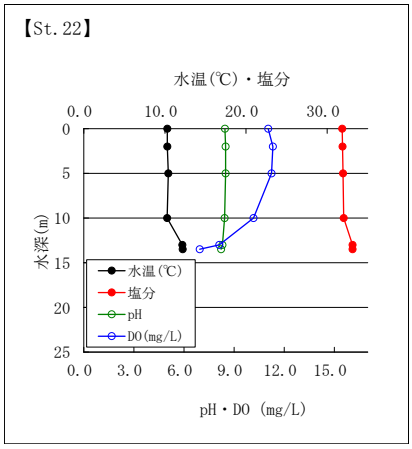
# Ｓｔ．22

## 調査地点位置

ディズニーランドの約 3km 沖合に位置する。魚類はハタタテヌメリが、その他の生物としては、多量のクモヒトデ類、トリガイ、エビジャコ属等が確認された。下層水の溶存酸素は 8.1mg/L と正常値であった。

## 採取試料

## 水質の状況



捕獲された最大個体は、約 7cm で、他は St.10 とほぼ同サイズであった。本調査地点付近が仔魚の着底地点とおもわれ、貧酸素環境でなければ、本種の生息適地だと推定される。

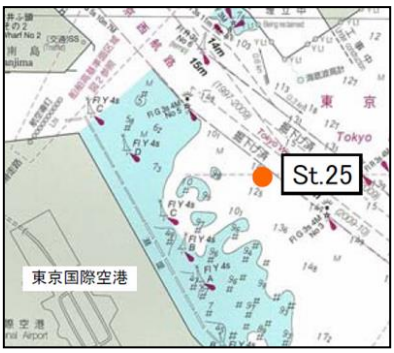
東京湾奥部の砂泥底に多く生息するクモヒトデ類（クシノハクモヒトデ、カキクモヒトデ等出現）。貧酸素にも強く、夏季には本種しか採捕されないということがしばしはある。

東京湾の砂泥底に多く生息する小型エビ類、稚魚調査で採捕されるエビジャコ属とは別種であると考えられる。本調査地点のほか、St.10 においても比較的多く確認された。

砂泥底に生息する二枚貝で、湾奥部では夏季に貧酸素により、斃死してしまい貝殻のみ確認される。今回は、約 4cm の生貝が確認された。10 月以降に着底したものと思われる。

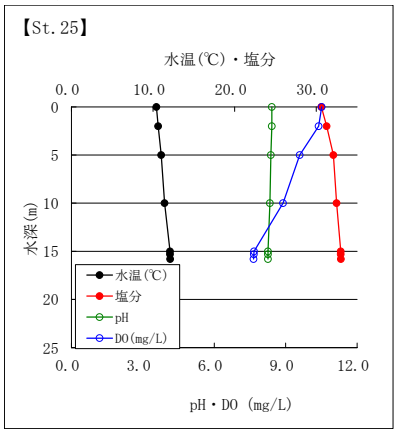
# Ｓｔ．25

## 調査地点位置

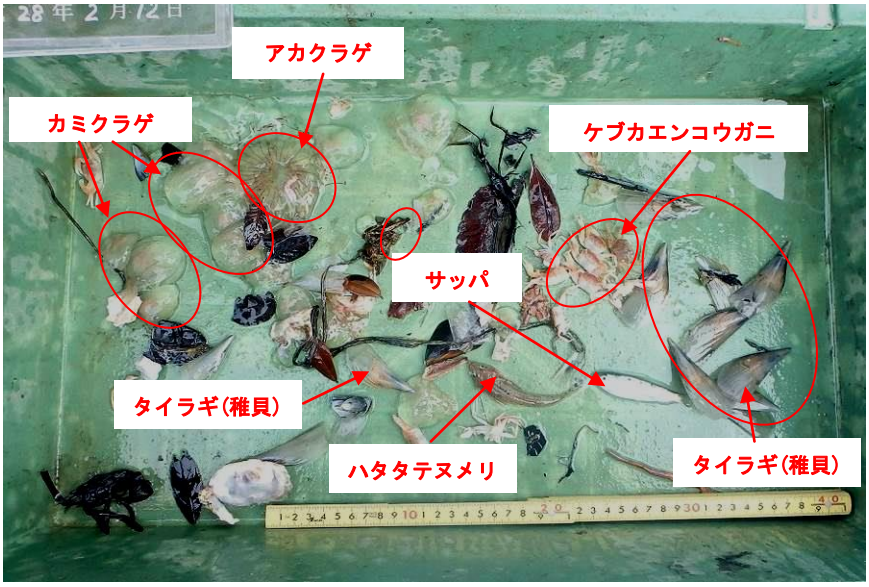



羽田空港の北東に位置する。魚類はハタタテヌメリ、サッパが確認され、その他の生物としてタイラギ(稚貝)、ケブカエンコウガニが確認された。下層水の溶存酸素は 7.7mg/L と正常値であった。また、表層水に弱いカビ臭が認められたことから、若干の河川水の影響がうかがわれた。

## 水質の状況

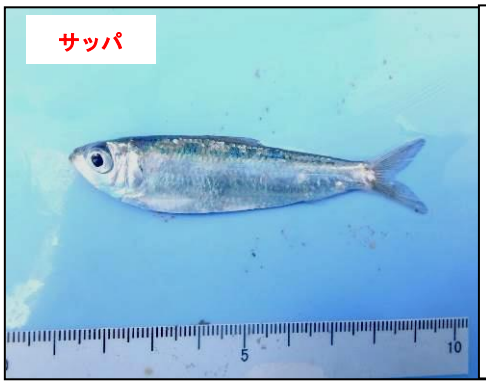



## 採取試料



本調査地点では成魚が 1 個体のみ確認された。ハタタテヌメリは、名前の通り体表面に粘液を多く分泌する。ネズッポ科の中でも小型種で成魚でも 10cm 程度である。

タイラギ稚貝は、St.22 を除く 3 地点で確認され、殻長も大きなもので 8cm 程度にまで成長したが、夏季の貧酸素時には、ほとんどの個体が斃死してしまう。

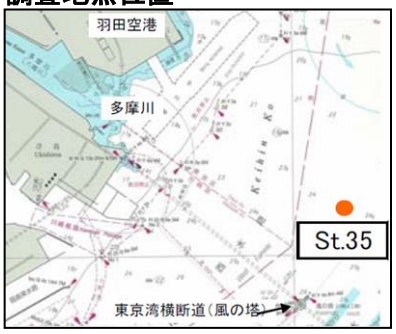



東京都内湾に多く生息する。産卵期は春～夏で、夏季の稚魚調査では、本種の稚魚が多獲されている。東京湾ではほとんど食用とされていない。

本種は、最大全長 8cm 程度の小型種で、水深 100m までの砂泥底に生息し、浅い干潟域には見られない。食性は底生の甲殻類である。

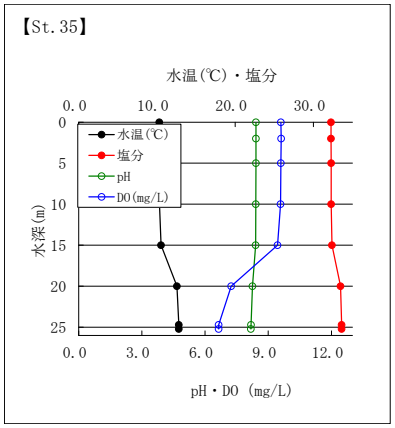
# Ｓｔ．35

## 調査地点位置

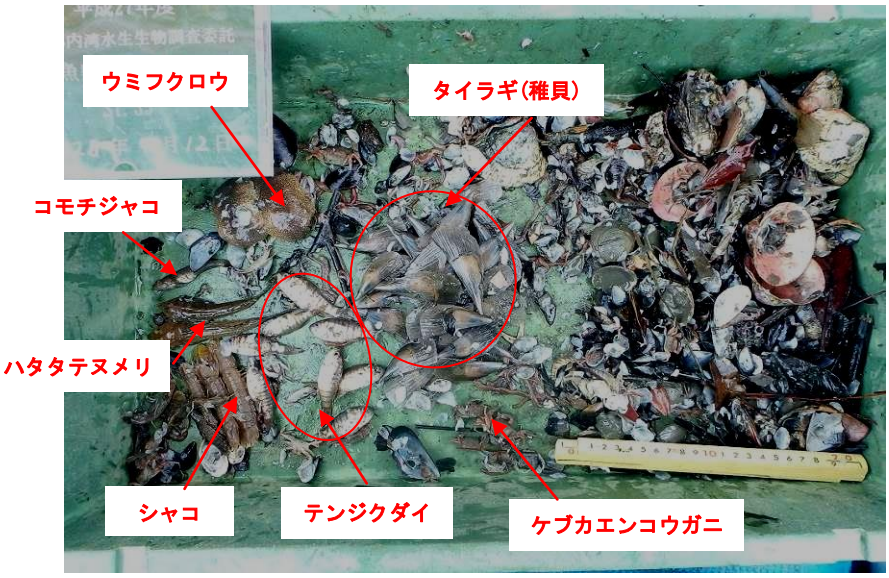



東京湾横断道の川崎人工島（風の搭）の北東に位置する。魚類はテンジクダイ、ハタタテヌメリ、コモチジャコが確認された。その他の生物はタイラギ(稚貝)、シャコ、ケブカエンコウガニ等５種類以上が確認された。下層水の溶存酸素は6.7mg/Lと正常値であった。

## 水質の状況




## 採取試料



東京湾の砂泥底に多く生息するが、内湾奥部には少ない。約8cmまでしか成長しない小型魚で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。

東京湾のやや深い砂泥底に生息するハゼで、記録によれば、平成13年度以降成魚調査で確認されておらず、11月のアカハゼに続き、14年ぶりの再確認である。

東京湾では水深15～30mの砂泥底にすむ。肉食性で甲殻類、多毛類等を捕えて食べる。近年夏季以外は、小型であるがほぼ継続して確認されている。

タイラギ稚貝は、20個体以上と前回と同じく本調査地点で最も多く確認され殻長も8cm程度と成長した。底層水貧酸素環境からの回復が、最も早かったためと推定される。